

令和7年度年間学習指導計画案

科目	論理国語	単位数	3単位:文系、スポーツコース 2単位:理系	学年・学科・コース	2年:普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	精選論理国語(三省堂)			副教材等	核心漢字、現代文演習ワーク(普通コース) 総合文字力(スポーツコース)

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</li> <li>・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	ミロのヴィーナス	・ミロのヴィーナスの「魅力」について考える。	○			・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	
					○	・進んで主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深め、学習の見直しをもって、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直し、考察した内容をまとめようとしている。	
6 7	マルジャーナの知恵	・「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する。	○			・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	
				○		・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	
					○	・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げ、論述したり討論したりしようとしている。	
8 9	人類による環境への影響	・人類史から環境問題を考える。	○			・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	
				○		・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	
					○	・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、文章の内容や構成を的確に捉え、調べた成果を発表しようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
10 11 12	病と科学 動的平衡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「痛み」に着目して医療や科学の限界について考える。</li> <li>・生命とは「動的平衡」のシステムであるという考え方を理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。</li> <li>・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら主張を支える適切な根拠をそろえ、調べたことを整理して論述しようとしている。</li> </ul>	定期考査 授業態度 小テスト 課題	
1	「なぜ」に答えられない科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学の知とはどのようなものかを理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。</li> <li>・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述しようとしている。</li> </ul>		定期考査 授業態度 小テスト 課題
2 3	「市民」のイメージ 「である」と「する」と	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカの陪審制度の事例をもとに「市民」の意味について考える。</li> <li>・「市民社会」における権利と義務について考える。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。</li> <li>・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述したり討論したりしようとしている。</li> </ul>		

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	古典探究	単位数	文系:3単位 理系:2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース
使用教科書	精選古典探究(第一学習社)		副教材等	新明説総合古典文法、 さくらさく古文単語 380、漢文必携	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</li> <li>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	古説話 古今著聞集 「小式部内侍が大江山の歌の事」	・著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。	○			・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
				○	・和歌を含んだ説話の特質について理解を深めようとしている。		
6	漢故事・寓話 孫子「呉越同舟」 呂氏春秋「知音」	・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。	○			・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	
				○		・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈している。	
					○	・故事成語の由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。	
7	古随筆 方丈記「ゆく川の流れ」	・鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。	○			・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章に表れているものの見方を踏まえて、自分の考えを広げたり深めたりしている。	
					○	・作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。	
7	漢名家の文章 昌黎先生文集「雑説」 柳先生文集「黔之驢」	・本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩にこめられた作者のものの考え方について理解を深める。	○			・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	・文章の展開を整理するとともに、比喩にこめられた作者の考えを捉えようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	古物語 大鏡「弓争ひ」 「花山天皇の出家」	・歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	○			・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	定期考査 授業態度 小テスト 課題
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	・内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。	
9 10	漢項羽と劉邦 史記「鴻門之会」 「四面楚歌」	・登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。	○			・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	
					○	・各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えようとしている。	
11	古物語 源氏物語「光る君誕生」 「若紫」	・歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。	○			・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	・人物造形・心理描写・和歌の役割などに注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。	
	漢不思議な世界 「酒虫」	・人に何らかの影響を及ぼす「虫」という考え方に触れ、劉氏にとっての酒虫の意味について考える。	○			・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	
					○	・番僧に会う前後の劉氏の考え方の変化を説明しようとしている。	
12	古日記 更級日記「門出」 「源氏の五十余巻」	・晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れる。	○			・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	・内容を的確に捉えるために、文語の決まりを理解し、積極的に説明しようとしている。	
1 2	古日記 蜻蛉日記「うつろひたる菊」 「泔坏の水」	・女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。	○			・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章に表れているものの見方を踏まえて、自分の考えを広げたり深めたりしている。	
					○	・『蜻蛉日記』の特徴について、理解を深めようとしている。	
	漢漢詩の鑑賞 「秋風引」ほか	・漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げる。	○			・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	
				○		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	
					○	・漢詩の表現や技法への理解を深めるとともに、作品にこめられた作者の思いを進んで読み取ろうとしている。	
3	漢諸家の思想 孟子「性善」 老子「小国寡民」 莊子「渾沌」 韓非子「侵官之害」ほか	・思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。	○			・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	
				○		・文章に表れているものの見方を踏まえて、自分の考えを広げたり深めたりしている。	
					○	・諸子百家の思想を学び、それぞれの主張の関係を捉えようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	地理探究	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(文系・理系)
使用教科書	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)		副教材等	2025 新地理要点ノート(啓隆社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	地理探究の目標について、学習指導要領では次のように規定しています。社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする学習過程を前提に、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解している。	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力を身に付けている。	日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることから、グローバル化が進み、国際理解の必要性が増している現代における重要な資質・能力を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準, 評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	1 節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形	地球表面の、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形について、それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかを理解する。	○			地形に関する知識と世界の地形分布の特徴、地形図の等高線や地図記号を判読し、地形や土地利用を捉えることができる。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		地形をプレートテクトニクスと関連づけ、地形と比較して考察できる。	
					○	地図の読み取りや作業に意欲的に取り組み地形と生活の関連を捉えようとしている。	
5	2 節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などの気候要素の地域による違いについて要因を考察し、人々の生活にどのように影響しているかを理解する。	○			大気の大循環と海洋、各気候の特徴を理解し、資料から各気候と植生の関連、人々の生活を読み取り、整理できる。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		気候と人間生活との関連を資料から考察し、各気候による景観の違いを捉え生活への影響を考察できる。	
					○	資料の判読から世界各地の気候や生活文化を意欲的に探究し、気候資料の作成に意欲的に取り組もうとしている。	
6	3 節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み 4 節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	日本の自然環境の特徴があり、その特徴と自然災害の関係を理解する。 地球上のさまざまな環境問題を理解し、その解決と持続可能な社会の創出のために、どのような考え方やどのような取り組みを行うべきかを考える。	○			日本列島の地形や気候など多様な自然環境の特徴と自然災害との関係について理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		自然災害と各地形の関係について、多面的・多角的に考察し、表現できる。	
					○	日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそとてみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
7	1 節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	農林水産業が、自然条件や社会条件により分布や発達にどのような傾向や規則性があるかを理解する。	○			農林水産業の空間的な規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みについて理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		場所の特徴や結びつきから主題を設定し、それらの空間的な規則性、傾向性や地球的課題の要因や動向を多面的・多角的に考察し表現している。	
					○	農林水産業について、よりよい社会の実現を視野に関連する課題を主体的に追究しようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 ・ 9	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配と、世界全体での偏りや飽食や飢餓について、地域を理解その原因について理解する。	○			食料の分配の世界的な偏り、飽食や飢餓のある地域と原因について理解する。	
				○		食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
10	3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布に大きな偏りがあることを理解する。 エネルギー・鉱産資源が、どのようにして生活や産業に利用されているか、また、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかを理解する。	○			エネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、資源の生活や産業との関連、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		エネルギー・鉱産資源の生産や消費の不均衡をなくすために行われていることを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
11	4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方があった。今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。	○			今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためにどのような考え方が必要かについて理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		持続可能な社会の実現のため、どのような考え方が必要かを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	資源・エネルギー問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
12	5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業の生活や産業の発達との関係と。世界工業がどのように発展し、現在はどうなような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのかを理解する。	○			工業はどのように発展し、現在はどうなような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		現在、どのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	
1	6節 第3次産業 1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業第	経済が発展と、物やサービスへの需要の関係と、第3次産業の現状について理解する。	○			経済が発展し、物やサービスへの需要が高まり、主力の産業となった第3次産業の現状について理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		主力産業となった第3次産業の現状について、多面的・多角的に考察し表現している。	
					○	第3次産業について、よりよい社会の実現のための課題を主体的に追究しようとしている。	
2	1節 交通・通信 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達	交通と通信の発達の社会や経済への影響と、発達の傾向や地域性、地域間格差について理解する。	○			交通網や通信網の発達には、どのような傾向や地域性、地域間格差が現れているかを理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	交通・通信について、よりよい社会の実現を視野に、関連する課題を主体的に追究しようとしている。	
3	2節 観光 1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化	観光の特徴や利点、現状と今後の課題について理解する。	○			訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		観光産業を活性化させる取り組みや、観光の特徴や利点、課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	日本史探究	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(文・理)
使用教科書	日本史探究(東京書籍)		副教材等	新詳日本史(浜島書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> <li>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察・構想・説明したりする力やそれらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、文化の特色などを多面的・多角的に考察し、それらを基に議論している。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第1章 先史社会の生活と文化	・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、時代を通観する問いを表現する。	○			・黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、先史社会の特色を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・先史社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現できる。	
					○	・先史・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとする。	
5	第2章 歴史資料と先史・古代の展望	・資料から情報を収集して読み取る技能を身につけるとともに、読み取った情報から先史・古代の特色についての仮説を表現することを通じて、見通しを持った学習を展開できるようにする。	○			・先史・古代の特色を示す適切な歴史資料から歴史に関わる情報を収集し読み取る技能を身につけている。	
				○		・古代国家の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現できる。	
					○	・学習の見通しをもって、古代国家の政治的特色について明らかにしようとする。	
6	第3章1節 古代社会の形成と展開「律令国家の形成と古代文化の展開」	・古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察し、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。	
				○		・小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、歴史に関わる諸事象の解釈などを根拠を示して表現できる。	
					○	・古代の国家の形成や過程に関する学習に対して、見通しをもって取り組もうするとともに、古代の文化を進んで学習しようとしている。	
7 8	第3章2節 「摂関政治と貴族文化」	・古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察し、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・古代の国家・社会の変容について、歴史の画期などを根拠を示して表現できる。	
					○	・古代の国家・社会に関する自身の学習について振り返り、調整しようするとともに、中世の内容の見通しをもち、古代との比較を通して歴史的事象を学ぼうとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立	・院政期から武家政権成立期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する	○			・古代から中世への時代の転換を理解している。	
				○		・古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現できる。	
					○	・中世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとする。	
10	第2章 歴史資料と中世の展望	・資料から情報を収集して読み取る技能を身につけるとともに、読み取った情報から中世の特色についての仮説を表現することを通じて、見通しをもった学習を展開できるようにする。	○			・中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	
				○		・中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現できる。	
					○	・見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとする。	
11	第3章1節 中世社会の展開 「武家政権の成立と朝廷」	・中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察し、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・中世の国家・社会の展開について、歴史に関わる諸事象の解釈などを根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとする。	
12	第3章2節「武家支配の広がりと国際交流」	・中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察し、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	○			・地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解している。	
				○		・中世の国家・社会の変容について、歴史に関わる諸事象の解釈などを根拠を示して表現できる。	
					○	・内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
1	第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成	・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	○			・中世から近世への時代の転換を理解している。	
				○		・時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現できる。	
					○	・近世の日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとしている。	
2 3	第2章 歴史資料と近世の展望	・資料から情報を収集して読み取る技能を身につけるとともに、読み取った情報から近世の特色についての仮説を表現することを通じて、見通しをもった学習を展開できるようにする。	○			・近世の特色を示す適切な歴史資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現できる。	
					○	・学習の見通しをもって、近世の特色について明らかにしようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	世界史探究	単位数	2単位	学年・学科・コース	2学年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	世界史探究(東京書籍)		副教材等	グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象を、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。	世界の歴史事象の意味や意義、特色などを時期や年代、相互の関連や現代とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、それらを説明、また、議論できる。	世界の歴史の諸事象について、主体的に探究しようとする態度を持つとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重する姿勢などを持っている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	序章―世界史へのまなざし 第1章 古代文明の出現	・各地域の古代文明について、その共通点や相違点、それらが自然環境とのように関係しているかなどについて理解する。	○			オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		古代文明に関わる諸事象に着目し、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義等を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	古代文明の出現の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
5	第2章 西アジアと地中海周辺	・西アジアと地中海周辺の国家がどのように影響を及ぼしあい、どのような共通点をもっているかなどについて理解する。 ・この世界で成立した宗教が現在の世界の宗教分布とどのように関係しているかについて理解する。	○			西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	
				○		西アジアと地中海周辺の歴史に着目し、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	西アジアと地中海周辺の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
6	第3章 南アジア 第4章 東南アジア	・南アジア地域を特徴づける「多様ななかの統一」とはどのようなことなのかなどについて理解する。 ・東南アジア地域における国家形成が交易や思想・文化とどのように関係しているのかなどについて理解する。	○			仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家などを基に、南アジアの歴史的特質を理解している。	
				○		南アジア・東南アジアの歴史に着目し、東南アジア・南アジアにおける宗教や文化の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	南アジア・東南アジアの内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
7	第5章 東アジアと中央ユーラシア	・東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのようにして生まれたのか、また古代国家の誕生と発展が社会と文化に与えた影響や、それによって生みだされた地域の特色について理解する。	○			秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		東アジアと中央ユーラシアの歴史に着目し、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国、遊牧民の社会との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	東アジアと中央ユーラシアの内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第6章 アフリカ、オセアニア、古アメリカ	・ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら理解する。	○			自然環境との関わりなどを基に、ユーラシア大陸以外の文明の特徴を理解している。	
				○		アフリカ、オセアニア、古アメリカの歴史に着目し、ユーラシア大陸以外の文明の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	ユーラシア大陸以外の文明の特徴について、見直しを持って取り組もうとしている。	
9	第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄	・アジア・アフリカの広大な地域が、イスラーム文明圏としてまとまった理由などについて理解する。	○			西アジアの動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播などを構造的に理解している。	
				○		諸地域の交流の広がりに着目し、諸地域へのイスラームの拡大の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	イスラーム世界の拡大と繁栄の内容に、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
10	第8章 中世ヨーロッパ	・9世紀から15世紀にかけて、ヨーロッパ世界ではどのような政治、経済、社会、文化の変動がおこったのか、また、それらの変動の結果は後世のヨーロッパにどのように継承されていたのかなどについて理解する。	○			ヨーロッパ封建社会とその展開を構造的に理解している。	
				○		諸地域の交流の広がりに着目し、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	中世ヨーロッパの内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
11	第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国	・歴史上かつてない規模の世界帝国であるモンゴル帝国はどのようにして生まれ、どのように世界を結びつけたのかなどについて理解する。	○			宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを構造的に理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		諸地域の交流の広がりに着目し、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	中華世界の変容とモンゴル帝国の内容に見直しをもって学習に取り組もうとしている。	
12	第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア	・インドと東南アジアにおけるイスラームの広がりが一様でなかった要因などについて理解する。	○			インド洋海域世界と東南アジアの発展を構造的に理解している。	
				○		諸地域の交易に関わる諸事象に着目し、インド洋海域世界と東南アジアの発展などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	インド洋海域世界の発展と東南アジアの内容に見直しをもって取り組もうとしている。	
1	第11章 大交易時代と世界の一体化	・大交易時代に、なぜ世界の各地で社会がほぼ同時に大きく変化したのか、また、世界の諸地域間の関係は、前後の時代と比べてどのように特徴づけられるのかなどについて理解する。	○			諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。	
				○		諸地域の交易とヨーロッパの進出に着目し、アジアでの交易の特徴とアメリカ大陸の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	大交易時代と世界の一体化の内容に、見直しをもって取り組もうとしている。	
2	第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄	・16世紀から18世紀にかけて、アジア諸地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか、また経済的繁栄はどのようにもたらされたのかなどについて理解する。	○			アジア諸地域の特徴を構造的に理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		アジア諸地域の動向に着目し、諸帝国の統治、アジア諸地域の特色、日本の対外関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	ユーラシア諸帝国の繁栄に対して、見直しをもって取り組もうとしている。	
3	第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	・16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家には、どのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。	○			主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	
				○		ヨーロッパ諸地域の動向に着目し、宗教改革、大西洋両岸諸地域の経済的連関、主権国家の特徴、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	主権国家の形成と地球規模での交易拡大に見直しをもって取り組もうとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	公共	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース
使用教科書	新版 公共(数研出版)		副教材等	最新図説公共(浜島書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	現代の諸課題について、様々な資料を基に理解を深め、事実を基に多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論を重ねたりして、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めることを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、構想したことを議論する力を身に付けている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を持ち、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚している。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	青年期の課題や先哲の思想・生き方を知り、公共的な空間を作っていく主体としての自覚を得る。	○			青年期の課題や先哲の思想、宗教について理解する。 自己形成の課題について考察できる。 先哲の思想や生き方、青年期の課題から自分自身の生き方を、主体的に追究しようとする。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	先哲の思想や生き方を学び、公共的な空間を作る主体としての自己を考察する。 現代の諸課題について考察する。	○			近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容を理解する。 公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できる。 選択・判断の手掛かりとなる考え方をを使って、現代の諸課題を主体的に追究しようとする。	
7 8	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理を理解し、日本国憲法で保障されている権利を学びそのあり方について考察する。	○			法などの社会規範の役割や日本国憲法で保障されている権利が理解でき、日常生活と関連づけて考察できる。 日本国憲法で保障されている権利の保障と他者の権利や公共の利益との調和について考察できる。 日本国憲法の基本原理に基づいた社会のあり方について、自分なりに構想できる。	
9	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	国内の政治の仕組み、地方自治、選挙制度などについて理解し、よりよい民主政治のあり方について考察する。	○			選挙のしくみや政党の役割、地方自治の現状と課題を理解する。 日本の政治について課題を発見し、解決する見通しを持つことができる。 模擬裁判・投票などの取組を通して、政治に関心を持ち、社会に積極的に参画する自覚を持つことができる。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
10	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	現代の企業の役割や経済活動の仕組み、政府が経済に果たす役割などを理解するとともに、国際経済の仕組みにも目を向け、課題を理解し考察する。	○			市場経済のメカニズムや財政・金融のはたらきを理解する。 需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察できる。 日本経済の課題や、市場機構を修正している具体例を指摘でき自らの生活と結び付けて経済と接することができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
11 12	第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	日本経済の発展の過程と特徴、消費者問題や労働問題などの社会問題について理解し、その解決方法について考察する。	○			日本経済のあゆみやさまざまな社会問題について理解する。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できる。	
					○	経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。	
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割	国際社会のしくみと戦後の国際情勢について理解し、これからの国際関係のあり方について考察する。 国際政治の課題について、理解し、その中で日本の果たすべき役割について考察する。	○			国際法の意義や国際連合の組織と役割を理解する。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できる。	
					○	国際社会で平和と安全を維持するため何が有効なのか、自ら意見が持て他者と意見の交流ができる。	
2	第3節 国際経済の動向と国際協力	国際経済の仕組みや課題について理解し、その解決方法について考察する。	○			貿易や外国為替相場について、そのしくみを理解する。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		円高などの為替相場の変動が経済にどのような影響を与えるのか考察できる。	
					○	国際社会の課題について主体的に追究できる。	
3	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	現代社会の諸課題について、探究するための資料を収集・選択し、討論や発表などを通して深く考察する。	○			現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などを理解する。	定期考査 授業態度 課題 ノート・プリント
				○		現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができる。	
					○	現代社会の特質から生じる価値の対立について、討論やディベートなどさまざまな方法を活用して主体的に探究できる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学Ⅱ	単位数	4単位 (1・2学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	新編 数学Ⅱ(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅱ(数研出版) クリアー数学Ⅱ(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第4章 三角関数 第1節 三角関数	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	○			・弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・一般角を動径とともに考察することができる。	
					○	・三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。	
4	第2節 加法定理	・加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			・加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。	
				○		・2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。	
					○	・加法定理を利用して、座標平面上の点の回転を考察することに関心を持ち、具体的な問題に取り組もうとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
5	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	・指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			・指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・指数関数 $y = a^x$ のグラフが定点(0, 1)を通ることを理解している。	
					○	・累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。	
5	第2節 対数関数	・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			・対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。	
				○		・対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。	
					○	・やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。	
8	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	・微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○			・平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。	
				○		・導関数を表す種々の記号を理解して、それらを適切に使うことができる。	
					○	・曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。	
9	第2節 関数の値の変化	・導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。	○			・導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。	
					○	・方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	
10	第3節 積分法	・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○			・不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。	
				○		・面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。	
					○	・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学B	単位数	1単位 (2・3学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	新編 数学B(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学B(数研出版) クリアー 数学B(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	・数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を培う。	○			・等差数列の公差、一般項、等比数列の公比、一般項などを理解している。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・等差数列、等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。	
					○	・数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	
10	第2節 いろいろな数列	・和の記号 $\Sigma$ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	○			・和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。	
				○		・初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。	
					○	・数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。	
11	第3節 漸化式と数学的帰納法	・数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	○			・初項と漸化式から数列の一般項が求められる。	
				○		・複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。	
					○	・おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
11	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積	・確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	○			・確率変数の期待値 $E(X)$ や分散 $V(X)$ などの計算式を理解して活用することができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。	
					○	・2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうか注意到しながら導こうとする。	
12	4. 二項分布 5. 正規分布	・確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	○			・標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。	
					○	・連続型確率変数について、離散型確率変数との違いに注目して捉えようとする。	
1	第2節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布	・母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする。	○			・標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・標本の大きさ $n$ を大きくしたとき、標本平均がどのような分布になるか直感的に理解した上で、標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。	
					○	・母集団や標本の特徴を理解しようとする。	
1	8. 推定 9. 仮説検定	・母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする。	○			・仮説検定の考え方をを用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・仮説検定の考え方がわかる。	
					○	・仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学C	単位数	1単位 (1・2学期)	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	新編 数学C(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学C(数研出版) クリアー数学C(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
6	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	・向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	○			・平面上のベクトルが 2 つのベクトルの線形和で 1 通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを2つのベクトルで表すことができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。	
					○	・ベクトルの内積の計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする。	
6	5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	・位置ベクトルを活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	○			・ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。	
				○		・位置ベクトルの一意性を活用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。	
					○	・様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	
7	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用	・平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。	○			・平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは、空間においても同様に成り立つことを理解している。	
				○		・空間ベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。	
					○	・様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	化学基礎	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	啓林館 i版 化学基礎		副教材等	新課程 Visual Select 化学基礎ノート 新課程版 2025 標準セミナー化学基礎	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解させるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</li> <li>観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</li> <li>物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解し、観察、実験などの基本的な技能を身に付けている。	科学的な事象・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
4	第1部 物質の構成 第1章 化学と物質 1. 物質の構成 2. 混合物の分離・精製 3. 元素と単体・化合物 4. 成分元素の検出 5. 粒子の熱運動と物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の分離や精製を通して、物質の探究法を身に付ける。</li> <li>単体、化合物の性質の特徴について理解する。</li> <li>粒子の熱運動と温度との関係、物質の三態変化について理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物質の分離・精製を通して、実験の基本操作や物質を探究する方法を考えることができる。</li> <li>単体や化合物の性質について実験などを通して、分析することができる。</li> <li>粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係により、物質の状態変化が起こることを理解しようとする。</li> </ul>		
				○				<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質、代表的な典型元素の電子配置とイオンの生成を関連付けて理解することができる。</li> <li>元素の周期律及び原子の電子配置と周期表や族の関係について理解しようとする。</li> <li>身近な物質の構成や化学結合について関心を持ち、論理的に考えようとする。</li> </ul>
					○			
5	第2章 物質の構成粒子 6. 原子の構造 7. 同位体 8. 電子配置 9. イオンの生成 10. イオンの生成とエネルギー 11. 元素の周期表	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。</li> <li>イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。</li> <li>元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質、代表的な典型元素の電子配置とイオンの生成を関連付けて理解することができる。</li> <li>元素の周期律及び原子の電子配置と周期表や族の関係について理解しようとする。</li> <li>身近な物質の構成や化学結合について関心を持ち、論理的に考えようとする。</li> </ul>	定期考査 小テスト 提出物 授業ノート 授業態度	
				○				
					○			
6	第3章 化学結合 12. イオン結合 13. イオン結合とその性質 14. 共有結合と分子 15. 共有結合の表し方 16. 配位結合 17. 電気陰性度と極性	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。</li> <li>共有結合を電子配置と関連付けて理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>沸点や融点、溶解性、電気伝導性などを通して、イオン結合とイオン結合でできた物質の性質を理解しようとする。</li> <li>電子配置と共有電子対との関連を通して、配位結合について理解しようとする。</li> <li>身近な物質の構成や化学結合について関心を持ち、論理的に考えようとする。</li> </ul>		
				○				
					○			
7	18. 分子からなる物質と分子間に働く力 19. 分子からなる物質 20. 共有結合結晶 21. 金属結合と金属 22. 化学結合と物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> <li>分子からなる物質の性質を理解する。</li> <li>金属の性質及び金属結合を理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>金属が持つ性質を金属結合と関連して理解することができる。</li> <li>融点、沸点、溶解性などの性質と構成原子の電気陰性度と関連付けて理解できる。</li> <li>各化学結合による物質の性質を比較し、性質の違いについてまとめようとする。</li> </ul>	定期考査 小テスト 提出物 授業ノート 授業態度	
				○				
					○			
8	第2部 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式 23. 原子量 24. 分子量・式量 25. 物質質量と粒子の数 26. 物質質量と質量 27. 物質質量と気体の体積	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>物質質量と粒子、質量、気体の体積の関係について理解している。</li> <li>物質質量と粒子、モル質量、気体の体積について、単位変換を導くことができる。</li> <li>物質質量について主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</li> </ul>		
				○				
					○			

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	28. 溶液と濃度 29. 化学反応式	・モル濃度について理解する。 ・化学反応式が化学反応に関与する物質の原子数の関係について理解する。	○			・溶液の体積と溶質の物質量の関係について理解しようとする。 ・化学反応式の係数と原子数の関係性に気づき、ドルトンの原子説と関連付けて考えようとしている。 ・化学反応式について主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	定期考査 小テスト 提出物 授業ノート 授業態度
10 ・ 11	30. 化学変化の量的関係 31. 過不足ある化学変化の量的関係	・化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見出して理解する。	○			・化学反応式と物質量の量的関係を理解し、工業化学における有用性について理解しようとする。 ・化学反応の係数の比が、反応物と生成物の物質量の比を表していることに気付かせ、化学反応の量的関係を物質量で表すことの有用性について考えようとする。 ・化学反応式の量的関係について主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	定期考査 小テスト 提出物 授業ノート 授業態度
12	第2章 酸と塩基 32. 酸と塩基の定義 33. 酸と塩基の価数と強弱 34. 水の電離とpH 35. 水溶液の希釈とpH測定	・酸と塩基の性質について理解する。	○			・水素イオンの授受による定義や、酸や塩基の強弱と電離度の大小、pHと水素イオン濃度や水の電離などの関係を通し、酸や塩基の性質について理解しようとする。 ・酸や塩基の強弱と塩の性質の関係を考え、説明しようとしている。 ・身近な社会生活で利用されている酸と塩基の反応について調べようとしている。	定期考査 小テスト 提出物 授業ノート 授業態度
1 ・ 2 ・ 3	38. 中和反応の量的関係 39. 中和滴定 40. 滴定曲線	・酸や塩基に関する実験などを通して、中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。	○			・酸や塩基の価数や物質量の量的関係について理解することができる。 ・メスフラスコやホールビペットなどの実験器具の扱い方や、溶液の調整方法など滴定捜査における基本的な技能を身に着けることができる。 ・中和滴定の実験を通して、実験結果をグラフに示し、分析・考察しようとしている。	小テスト 提出物 授業ノート 授業態度

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	生物基礎	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース(文系)
使用教科書	高等学校 生物基礎(数研出版)		副教材等	生物基礎研究ノート(博洋社) リードα 生物基礎(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</li> <li>観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</li> <li>生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法	
			a	b	c			
4	序章 生物基礎を学ぶにあたって探究のプロセス 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 生物の多様性、生物の多様性・共通性とその由来、生物の共通性としての細胞	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物基礎で学習する内容の概要を把握する。学習を進めるうえで重要となる探究のプロセスについて理解する。</li> <li>生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。</li> <li>生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解する。</li> <li>さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。</li> <li>生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>		
				○				<ul style="list-style-type: none"> <li>生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPの形で供給されていることを理解する。</li> <li>植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。</li> <li>エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>
					○			
5	第1章 生物の特徴 2. エネルギーと代謝 生命活動とエネルギー、代謝とエネルギー、ATP	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。</li> <li>細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。</li> <li>動物や植物のエネルギーの獲得方法を参考にしながら、菌類や細菌がどのようにエネルギーを獲得しているかを調べ、説明できる。</li> <li>呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	定期考査 小テスト 授業態度 課題 実験レポート	
				○				
					○			
6	第1章 生物の特徴 3. 呼吸と光合成 呼吸、光合成、エネルギーの流れ、酵素	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。</li> <li>酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内で必要な化学反応が進行することを理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。</li> <li>DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。</li> <li>遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	定期考査 小テスト 授業態度 課題 実験レポート	
				○				
					○			
7	第2章 遺伝子とそはたらき 1. 遺伝情報とDNA 遺伝情報を含む物質-DNA、DNAの構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。</li> <li>遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。</li> <li>DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。</li> <li>遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	定期考査 小テスト 授業態度 課題 実験レポート	
				○				
					○			

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第2章 遺伝子とそのはたらき 2. 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の複製、遺伝情報の分配	・DNAが、半保存的に複製されることを理解する。 ・細胞周期の進行に伴って、DNAが正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解する。	○			・細胞周期の進行に伴って、DNAが複製され、分配されることを理解する。 ・DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 ・特定の条件で細胞周期の各期の長さを推定できることに気づくことができる。	定期考査 小テスト 授業態度 課題 実験レポート
9	第2章 遺伝子とそのはたらき 3. 遺伝情報の発現 遺伝情報とタンパク質、タンパク質の合成、分化した細胞の遺伝子発現、遺伝情報と遺伝子、ゲノム	・タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。 ・個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	○			・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 ・DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだすことができる。 ・遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	
10	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 体内での情報伝達、神経系による情報の伝達と調節、内分泌系による情報の伝達と調節	・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。	○			・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・チロキシン(甲状腺ホルモン)の例に、フィードバックがはたらかなくなった場合、どのようなことが起こるかを考え、説明することができる。 ・体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	定期考査 小テスト 授業態度 課題 実験レポート
11	第3章 ヒトの体内環境の維持 2. 体内環境の維持のしくみ 体内環境の維持、血糖濃度の調節のしくみ、血液の循環を維持するしくみ	・ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。	○			・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・食事の前後での血糖濃度とインスリン濃度の変化のグラフから、血糖濃度とインスリンのはたらきとの関係に気づき、説明することができる。 ・体内環境の維持のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	定期考査 小テスト 授業態度 課題 実験レポート
12	第3章 ヒトの体内環境の維持 3. 免疫のはたらき からだを守るしくみ-免疫、自然免疫、適応免疫、免疫と病気	・からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。 ・免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。	○			・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考えることができる。 ・免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	
1	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 植生、植生の遷移	・植生の成りたちや相親について理解する。 ・植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。	○			・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 ・植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	
2	第4章 生物の多様性と生態系 2. 植生の分布とバイオーム バイオームの成立、世界のバイオーム、日本のバイオーム	・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 ・気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。	○			・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・地球の気温が上昇すると、バイオームの垂直分布がどのように変化するかを推測することができる。 ・植生の分布とバイオームに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	定期考査 小テスト 授業態度 課題 実験レポート
3	第4章 生物の多様性と生態系 3. 生態系と生物の多様性 生態系の成りたち、生態系と種多様性、生物どうしのつながり 4. 生態系のバランスと保全 生態系のバランス、人間の活動と生態系、生態系の保全	・生態系の成りたちを理解する。 ・生態系がもつ復元力について理解する。 ・生態系の保全の重要性について理解する。	○			・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 ・生態系と生物の多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	体育	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	なし			副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。</li> <li>・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> <li>・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	体づくり運動	・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のねらいに応じて効果的な成果を得るための適切な運動の行い方を理解できる。</li> <li>・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	授業態度 学習カード
	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できる。</li> <li>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えること。</li> <li>・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	
5	器械体操	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械体操)技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動の観察、体力の高め方を理解する。</li> <li>・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。</li> <li>・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械体操)回転系の接転技群、ほん転技群の基本的な技、巧技系の平均立ち技群の基本的な動きを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。</li> <li>・(陸上競技)技術と関連させた運動や練習を繰り返したり継続して行ったりすることで結果として体力を高めることができることを理解できる。</li> <li>・(ダンス)イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表を理解できる。</li> <li>・(器械体操)自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。</li> </ul>	
6	陸上競技(競走・跳躍・投擲)						
7	ダンスから選択						
8							

		様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・(陸上競技) 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。</li> <li>・(ダンス) 作品の創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えることができる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(器械体操・陸上競技・ダンス) 自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。</li> </ul>	
9	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの技術と技能及び変化について理解できる。</li> <li>・運動の概念と自己の状況を関連付けたりして自己や社会についての課題を発見し他者に伝えることができる。</li> <li>・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。</li> </ul>	
9 10 11 12	球技・武道から選択  球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。</li> <li>・(武道) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(球技) 型や種類によって必要な体力要素がありその型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。</li> <li>・(武道) 伝統的な考え方は対戦相手は「道」を追及する大切な仲間であることを理解できる。</li> <li>・(球技) チームでの学習で状況に応じてチームや自己の役割を他者に伝えることができる。</li> <li>・(武道) 練習や試合の場面で自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができる。</li> <li>・(球技) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にすることができる。</li> <li>・(武道) 相手を尊重し礼法やなどの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするすることができる。</li> </ul>	授業態度 学習カード
12 1	陸上競技(長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の向上や競争を通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等に関わらず「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わう。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じてストライドやピッチを切り替えて走ることができる。</li> <li>・自己や仲間の動きを分析して良い点や修正点を指摘することができる。</li> <li>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることができる。</li> </ul>	
2	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツを行う際は気象条件の変化など様々な危険を予見し回避することについて理解できる。</li> <li>・運動やスポーツの活動時の健康、安全の確保の仕方について習得した知識を基に環境の異なる場所や変化を想定して危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えることができる。</li> <li>・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	授業態度 学習カード
2 3	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画たて、取り組む。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の構成要素は健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることを理解することができる。</li> <li>・学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に応用することができる。</li> <li>・一人一人の違いを大切に、健康・安全を確保することができる。</li> </ul>	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	保健	単位数	1単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	生涯を通じる健康について、思春期、結婚生活、加齢の段階において、健康、行動、生活などに課題や特徴があること、また、労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題について理解する。 人間の生活や産業活動が自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことを理解し、改善の対策を考える。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。	生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	3 単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・思春期における体の変化を女性と男性に分けて説明できる。	○			・生涯の各段階と健康の関わりについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康に関わる原則や概念を基に整理したり個人及び社会生活と関連付け他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
5	3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶	・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・妊娠、出産の過程における健康課題について説明できる。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	○			・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期と健康について習得した知識をもとに心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために性に関わる情報を適切に整理している。 ・妊娠、出産と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		
6	6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康 8 働くことと健康	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・加齢に伴う心身の変化について説明できる。 ・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。	○			・加齢に伴い心身の機能や形態が変化することについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ・中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取り組みと社会的な対策を整理している。 ・働くことと健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		
7 8	9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活	・労働災害の種類とその原因について説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	○			・労働災害を防止する対策が必要であることについて、言ったり書いたりしている。 ・労働災害の防止に向けて個人の取り組みと社会的な取り組みについて整理している。 ・健康的な職業生活について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁、土壌汚染と健康	・大気汚染の原因と健康への影響について説明できる。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。	○			・人間の生活や産業活動は大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし健康に影響を及ぼしたり被害をもたらすことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康に関わる原則や概念を基に整理し、自他や社会の課題を発見している。 ・健康を支える環境づくりについて課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
10	3 環境と健康にかかわる対策 4 ゴみの処理と上下水道の整備	・産業廃棄物の処理について説明できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。	○			・汚染物質の排出をできるだけ制御したり排出された汚染物質を適切に処理する必要性を理解し言ったり書いたりしている。 ・産業活動によって引き起こされる自然環境汚染について自他や社会の課題を発見している。 ・環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
11	5 食品の安全性 6 食品生活にかかわる活動 7 健康サービスとその活用	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・保健行政の役割について説明できる。	○			・健康を保持増進するには、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
12 1	8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用	・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて説明できる。	○			・疾病からの回復や悪化の防止には個々の医薬品の特性について理解したことを言ったり書いたりしている。 ・医薬品の制度とその活用について医薬品には承認制度があり販売に規制が設けられていることと関連付けながら生活の質の向上のため、自他や社会の課題を発見している。 ・医療サービスについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
2 3	10さまざまな保健活動や社会的対策 11健康に関する環境づくりと社会参加	・国際機関、民間機関などの保健活動について説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	○			・健康を支えるために健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策について理解したことを言ったり書いたりしている。 ・地域の保健、医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、自他や社会の課題を発見している。 ・保健活動について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication Ⅱ (数研出版)		副教材等	ユメタン(アルク)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けようとしている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したりしようとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	■Lesson 1 Leadership in Modern Times	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。(以下同) ・現代社会において求められるリーダーシップについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		本文の内容について、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
5	■Lesson 2 The Diversity of Traditional Houses	・[Lesson1~共通] ・世界の伝統的な住居について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
6	■Lesson 3 Improving Society with Avatar Robots	・[Lesson1~共通] ・分身ロボットについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、自分の意見を話したり、書くことができる。"	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
7 8	■Lesson 4 Approaches to Food Waste	・[Lesson1~共通] ・食品ロスについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	■Lesson 5 Animals as Indispensable Partners	・[Lesson1~共通] ・人間の暮らしと社会をサポートする動物について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
10	■Lesson 6 An Irish Poet on a Mission	・[Lesson1~共通] ・マクミランの使命と日本文化への貢献について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
11	■Lesson 7 Be Free from Gender Bias	・[Lesson1~共通] ・社会にひそむジェンダーバイアスについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	小テスト パフォーマンス テスト
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
12	■Lesson 8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees	・[Lesson1~共通] ・緒方貞子氏が行った難民保護と彼女の信念について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
1 ・ 2	■Lesson 9 Tackling Global Warming	・[Lesson1~共通] ・地球温暖化への取り組みについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	定期考査 発問評価 提出物
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	
2 ・ 3	■Lesson 10 Keys to Finding Happiness	・[Lesson1~共通] ・幸福度を高めるコツについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			新出語や Key Phrases, Key Language の言語材料、本文の論理展開を理解し、それを基に、文章を読み取ることができる。	小テスト パフォーマンス テスト
				○		本文の内容について、学習した語句を用いて、自分の意見を話したり、書くことができる。	
					○	内容について、概要や要点、必要な情報を把握したり、基本的な語句を用いて情報や考えを伝えたりすることを主体的に行うことができる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース
使用教科書	be English Logic and Expression II Clear(いいずな書店)		副教材等	be Clear Grammar Book II(いいずな書店)、速読英熟語(Z会)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	各単元の文法項目を正しく用いて表現することができ、時事問題や現代社会が抱える問題などの題材について自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする意欲的なコミュニケーションを取る姿勢を身に付ける。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
文法事項の意味や働きについて理解し、書く・話す／伝え合う技能を身につけている。	各単元の題材について、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。	各単元の題材について、筋道を立てて伝え合おうとする。また、発話を振り返り、改善点を見出している。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	<b>■Introduction</b> 「論理的に考える」ためのウォーミングアップ <b>■Your Interests</b> 興味のあることについて話す	【言語材料】 ・自動詞/他動詞 ・動詞の形 ・句と節 ・時制 【言語の働き】 ・情報をたずねる	○			時制の意味や働きについて理解している。(●) 時制などを適切に用いて、伝え合う技能を身につけている。(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンステスト
				○		クラブ活動や自分の趣味について、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。(◆)	
					○	クラブ活動や自分の趣味について、筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。(■)	
5	<b>■Your Daily Life</b> 日常生活を紹介する <b>■Your School Life</b> 学校生活について話す	【言語材料】 ・名詞句/名詞節 ・助動詞 【言語の働き】 ・交渉する ・手順を説明する	○			名施設や助動詞(●) 名施設や助動詞など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンステスト
				○		いま流行していることや学校生活について、(◆)	
					○	いま流行していることや学校生活について、(■)	
6	<b>■Script Writing</b> スピーチやプレゼンテーションに向けて、自分が話す原稿を考える <b>■Media Literacy</b> メディアリテラシー	【言語材料】 ・形容詞 ・分詞 【言語の働き】 ・例を挙げる ・相手の意見を聞く	○			形容詞や分詞(●) 形容詞や分詞など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンステスト
				○		最近目にしたことについて、(◆)	
					○	最近目にしたことについて、(■)	
7	<b>■Helping Others</b> ボランティア活動 <b>■Introducing Your Town</b> 地域活性レポート	【言語材料】 ・形容詞句 【言語の働き】 ・提案する	○			形容詞句や関係代名詞/副詞(●) 形容詞句や関係代名詞/副詞など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンステスト
				○		ボランティアの経験や町の魅力について、(◆)	
					○	ボランティアの経験や町の魅力について、(■)	
8	<b>■Speech Activity</b> ここまで習ったトピックを派生させてスピーチをしてみよう	【言語の働き】 ・聞き手に伝わりやすい表現を考える ・聞き手に聞こえやすい話し方を工夫する	○			一学期に学習した文法事項(●) 一学期に学習した文法事項(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンステスト
				○		自分の現在関心があることや地域について、(◆)	
					○	自分の現在関心があることや地域について、(■)	
9	<b>■Language of the World&amp; Discussion</b> 世界の言語	【言語材料】 ・副詞/副詞句 【言語の働き】 ・同意する/しないの意思表示をする ・確認する	○			副詞(●) 副詞など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンステスト
				○		言語の消滅について、(◆)	
					○	言語の消滅について、(■)	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	<b>■Imagining the Future</b> 想像力を働かせる <b>■Happiness and Stress</b> 新しい幸福の形とストレス	<b>【言語材料】</b> ・副詞句/節 <b>【言語の働き】</b> ・あいづち ・グラフや図に注目させる	○			副詞句/節(●) 副詞句/節など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		与えられたストーリーの続きおよび自分の幸せについて、(◆)	
					○	与えられたストーリーの続きおよび自分の幸せについて、(■)	
11	<b>■Comparing Countries</b> 世界のデータを比較する <b>■Giving Presentation</b>	<b>【言語材料】</b> ・比較表現 <b>【言語の働き】</b> ・グラフや図に注目させる	○			比較表現(●) 比較表現など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		データから読み取れることについて、(◆)	
					○	データから読み取れることについて、(■)	
12	<b>■Cultural Diversity</b> 文化の多様性 <b>■Japanese Customs</b> 日本の文化	<b>【言語材料】</b> ・仮定法 ・接続詞/話法 <b>【言語の働き】</b> ・理由をたずねる ・感謝を伝える	○			仮定法や that 節/話法(●) 仮定法や that 節/話法など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		途上国の支援やアンケート結果の分析について、(◆)	
					○	途上国の支援やアンケート結果の分析について、(■)	
1	<b>■Population Issues</b> 人口問題 <b>■Debate</b> 時事問題の解決策や現在施されている対策についてディベートをする	<b>【言語材料】</b> ・「ある」「いる」「かかる」 <b>【言語の働き】</b> ・共感する	○			存在や変化を表す表現(●) 存在や変化を表す表現など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		少子化対策について、(◆)	
					○	少子化対策について、(■)	
2	<b>■Rights and Equality</b> 人権と平等 <b>■ Think Globally、 Act Locally</b> 平和な世界を築くために	<b>【言語材料】</b> ・使役動詞 ・知覚動詞 ・無生物主語 <b>【言語の働き】</b> ・反論する前にクッションを置く ・話を切り出す	○			使役動詞/知覚動詞や無生物主語(●) 使役動詞/知覚動詞や無生物主語など(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		ジェンダーや人権問題および SDGs について、(◆)	
					○	ジェンダーや人権問題および SDGs について、(■)	
3	<b>■Show and Tell</b> (Presentation) 時事問題の現状や、現時点での取り組みについての意見、新たな提言などについて視覚的な見易さも考慮した上でプレゼンテーションを行う	<b>【言語材料】</b> 一年次の文法事項 <b>【言語の働き】</b> ・伝わりやすさを考慮して伝える ・共感や疑問などを含むコメントや質問をする	○			二年次に学習した文法事項(●) 二年次に学習した文法事項(◎)	定期考査 発問評価 提出物 小テスト パフォーマンス テスト
				○		時事問題やそれに対する現時点での取り組みについて、(◆)	
					○	時事問題やそれに対する現時点での取り組みについて、(■)	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	情報 I	単位数	2単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	最新情報 I (実教出版)		副教材等	最新情報 I 学習ノート(実教出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1章 情報社会と私たち 第1節 情報社会 ① 情報社会と情報 ② 情報の特性 ③ 情報のモラルと個人に及ぼす影響	・情報社会の現状について理解する。 ・情報の特性について理解する。 ・情報モラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。	○			・情報社会と人間との関わりについて考え、理解する。 ・情報の特性を活用した事例と、情報の特性によって生じる事例を挙げることができる。 ・情報社会の現状についてインターネット等で調べようとしている。	定期考査 授業態度 課題
				○			
					○		
5	第2節 情報社会の法規と権利 ① 知的財産 ② 情報の利用と公開 ③ 個人情報の保護と管理 第3節 情報技術が築く新しい社会 ① 社会の中の情報システム ② 情報技術と課題解決	・他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 ・社会の中で活用されている情報技術について理解する。	○			・知的財産権の概要について説明することができる。 ・個人や自分の個人情報とプライバシーを適切に取り扱う注意点を挙げることができる。 ・社会の中の情報システムについて、興味や関心を持っている。	
				○			
					○		
6	第6章 アルゴリズムとプログラミング 第1節 プログラミングの方法 ① アルゴリズムと表記 ② プログラミング言語	・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。	○			・アルゴリズムとプログラムについてそれぞれ説明することができる。 ・簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できる。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に、主体的に取り組んでいる。	
				○			
					○		
7	第2節 プログラミングの実践 ① プログラミングの方法 ② 関数を使用したプログラム ③ 探索と整列のプログラム	・変数を使用したプログラムを作成する。 ・関数を使用したプログラムを作成する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。	○			・変数を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成することができる。 ・問題解決のアルゴリズムにしたがって、基本制御構造を使用して適切かつ効果的にプログラムを作成することができる。 ・問題解決のために作成したプログラムの記述を学習者間で相互評価し、改善してより効率的なプログラムを作成する努力を惜しまない。	
				○			
					○		

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第2章 メディアと情報デザイン 第1節 メディアとコミュニケーション ① メディアの発達 ② メディアの特性 ③ コミュニケーションの形態 ④ インターネットのコミュニケーション	・メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。 ・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。	○			・メディアの機能について説明することができる。	定期考査 授業態度 課題
				○		・伝達する情報に応じて適切に表現メディアや情報メディアを選択して表現することができる。	
					○	・メディアから収集する情報を批判的に思考し、主体的に読み解こうとする態度を身に付けている。	
9	第2節 情報デザイン ① 社会の中の情報デザイン ② 情報デザインの工夫  第3節 情報デザインの実践 ① 文書の作成 ② プレゼンテーション ③ Web ページ	・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。	○			・情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味と目的について説明することができる。	
				○		・情報バリアフリーやユニバーサルデザインについて、身近な例を挙げることができる。	
					○	・説得力のあるプレゼンテーションを行うため、スライドの作成やリハーサルに取り組み、フィードバックを行いながら、よりよいプレゼンテーションになるよう粘り強く準備を進めている。	
10	第3章 システムとデジタル化 第1節 情報システムの構成 ① コンピュータの構成と動作 ② ソフトウェアとインターフェース	・コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ・ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。	○			・コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。	
				○		・情報機器を相互に接続するために、適切なインターフェースを選択することができる。	
					○	・スマートフォンなどの身近な情報機器について、性能の向上や発展的な活用の方法を考えようとしている。	
11	第2節 情報のデジタル化 ① アナログとデジタル ② 2進数と情報量 ③ 演算の仕組み ④ 数値と文字の表現 ⑤ 数値の計算 ⑥ 音声の表現 ⑦ 静止画と動画の表現 ⑧ 情報のデータ量	・アナログとデジタルの違いについて理解する。 ・コンピュータの演算の仕組みを理解する。 ・数値や文字をデジタル化する方法を理解する。	○			・アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。	
				○		・アナログとデジタルを比較し、その特徴を適切に説明できる。	
					○	・コンピュータによる演算や数値計算の仕組みについて関心を示し、理解しようとしている。	
12	第4章 ネットワークとセキュリティ 第1節 情報通信ネットワーク ① ネットワークの構成 ② 情報通信の取り決め ③ web ページとメールの仕組み ④ 転送速度とデータ圧縮	・情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・Web ページとメールの仕組みについて理解する。	○			・通信方式の種類やその違いについて説明することができる。	
				○		・目的に沿って、LAN を構成する情報機器の接続を適切に考えることができる。	
					○	・インターネットの仕組みやサービスに興味・関心を持ち、問題の解決に向けて、個人あるいはグループでネットワークの活用について検討しようとしている。	
1	第2節 情報セキュリティ ① 脅威に対する安全対策 ② 情報セキュリティの確保 ③ 安全のための情報技術	・脅威に対する様々な安全対策について理解する。 ・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。	○			・情報セキュリティの3つの基本的な考え方について説明することができる。	定期考査 授業態度 課題
				○		・マルウェアや不正アクセスなどの情報セキュリティの脅威に対する対策について適切に判断し、対処することができる。	
					○	・暗号の利用など、情報セキュリティを維持するための技術に関心を持っている。	
2	第5章 問題解決とその方法 第1節 問題解決 ① 問題解決 ② 問題の発見 ③ 問題の明確化 ④ 解決案の検討 ⑤ 解決案の決定 ⑥ 解決案の実施と評価	・問題解決の手順について理解する。 ・問題の発見の方法について理解する。 ・問題を明確化する方法について理解する。	○			・問題や問題解決の意味、問題解決の手順について説明することができる。	
				○		・問題発見のための現状分析の方法を考え、適切に選択できる。	
					○	・試行錯誤しながら、粘り強く問題の発見・解決に取り組んでいる。	
3	第3節 モデル化 ① モデル化とシミュレーション ② モデルの分類 ③ モデル化の手順 ④ モデル化の手法 ⑤ モデル化をする時の注意	・モデル化の意味について理解する。 ・モデル化の分類について理解する。 ・モデル化する手順と方法を理解し、様々なモデルを作成する。	○			・モデル化およびシミュレーションの意味について説明することができる。	
				○		・モデル化およびシミュレーションが、社会の問題解決に果たす役割について考え、事例を挙げて説明することができる。	
					○	・作成したモデルに対し、目的を達成しているかの観点で自己評価、および相互評価を行ってモデルの改善に努めようとする。	